教育　おおらか・さわやか・きわやかな大崎の教育

問 教育委員会管理課　☎476-1111（401）

◆平成 26 年度幼保小連携の会が開催されました

町教育委員会では、園児・幼児の円滑な小学校入学を目的に、今年度から『幼保小連携の会』を開催することにしました。

これまでは、小学校ごとに入学する園児・幼児を対象に、説明会や体験入学会を開催していましたが、町の教育課題（学力向上・体力向上・保健指導など）について、町内の幼稚園・保育園の園長さんや先生方、小学校の校長先生方にお集りいただき、情報の交換・共有や意見交換などを行い、いわゆる『小１問題（プロブレム）』の解消に向け、連携協力していく出発点となりました。

第２回以降は小学校ごとに会を開催し、園児や幼児、小学校の実態に応じた情報交換が行われることになります。円滑な小学校入学に向け、町としても連携・協力してまいります。

▲幼保小連携の会の様子

まなびの窓　おしえの庭

子どもの『自立心』を促すために

ＮＯ.24　　有明高等学校長　小田原　啓朗

本年度は、有明高校にとって閉校の年であり、私にとっても教職生活最後の年でもある。これまで 37 年間高校生や保護者と接してきたが、10 年くらい前から子どもたちの成長で危惧していることがある。それは、進学高校・専門高校に関係なく、生徒が経済的自立を目ざし、やがては人生を左右する自身の進路選択について、真剣に考えようとせず、結論を先に延ばし続け、進路実現がうまくいかない高校３年生が増えていることである。

このことは、巣立ちをする雛鳥のごとく、親や他人に頼らず、独り立ちして、自力でやっていこうとする『自立心』が育っていないことが大きな要因として考えられる。

家庭においては、子どもが夢や希望をもって親から自立して生きられるよう、親が正面から子どもと向き合い『自立心』を促して欲しい。そのためには、親は自分の本音を自分自身の経験に即して、子どもと語り合うことが大切である。特に、父親には仕事で何が問題になっているのか、その仕事を通して日本の問題や課題は何かを語って欲しい。また、親の子離れも必要である。子どもは別人格、親の所有物ではないことを理解し、子どもを生き甲斐にする事を止め、自分の人生を生き始めることである。そして、何か子どものことで決断・行動する場合、『子どものためになっているかどうか』を１番に考え、あくまでも最終決定は本人に委ねてもらいたい。

現代は、激動の時代であり、もはや親の育ったような社会ではない。だからそれを肌で感じている親自身が、今こそ子どもの『自立心』を促すためにも、自分の思いや仕事の経験を子どもに語って欲しい。